



平成25年度「篠ノ井西中学校 学校通信」

発行日 平成26年1月17日

第 7 号(125号)

長野市立篠ノ井西中学校

電話(026)292-0244

FAX(026)292-7880

発行者 教頭 高池 一昭

申 布施だより

1月8日 3学期始業式 校長講話 『当たり前ことに感謝の気持ちを！』

代表の丸田君、東方（とうぼう）君、内山さん、三人とも本当に素晴らしい決意発表でした。その決意をぜひ行動に移して行ってください。

さて、平成26年、新しい年を迎えました。そして、いよいよ3学期が始まりました。この3学期は49日間と大変短い学期になります。よく1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われます。3学期の月日が過ぎる早さを表した言葉です。特に3年生にとっては、中学校生活最後の49日間となります。今の仲間と過ごす、本当に大切な1日1日になります。

さて、東日本大震災からすでに3年が経とうとしていますが、震災のあった年の6月、新聞にこんな投書がありました。



貧しい国の人たちに「今、幸せですか？」と尋ねると「今日のご飯が食べられたから幸せです」と答える。日本で同じことを尋ねても「幸せです」と答える人は多くはない。

これは私が高校生の時に先生から聞いた話だ。きっと人は一度大きな幸せを知ると、それよりも小さな幸せを「幸せ」と考えられなくなるのだろう。しかし東日本大震災をきっかけに、今までの「当たり前」を「幸せ」だと改めて思うことができた。支えてくれる人がいる。雨風をしる家がある。ご飯が食べられる。物事を学ぶことができる。これらは、当たり前のことではなく「幸せ」なことだ。

私の住む地域では地震の影響はほとんどない。その中で私たちは大震災を忘れることなく、今ある「当たり前のこと」に感謝しながら、一日一日を精一杯生きていく。「幸せですか」と聞かれ「幸せです」と笑顔で即答できる、そんな生き方をしたいと思う。

こういう投書でした。幸せかどうかは、当たり前ことに感謝の心が持てるかどうかであると、投書された方は言っています。私もそのとおりだと思います。

「ありがとう」の反対の言葉はなんだと思いますか。「当たり前」です。私たちの周りは、あまりにも当たり前になってしまっていて、有り難さを感じないことに溢れています。でも、そのどれもが当たり前のことではありません。

最近読んだ本で、とても心に残った本があります。その本の著者は、池間哲朗さんという、現在NPO法人アジアチャイルドサポートの代表理事を務めている方です。池間さんは20年ほど前、当時カメラマンとして訪れたアジアの貧しい地域で、そこに暮らす10歳ぐらいの女の子に「あなたの夢はなんですか？」と尋ねたそうです。するとその女の子はこう答えたそうです。「私の夢は、大人になるまで生きることです。」

心に突き刺さるような言葉です。その子が病気だからではありません。大人になれずに亡くなっていく子どもがたくさんいる、そんな過酷な環境の中で生活している子です。学校にはもちろん行っていません。ですが、明日も生きるために、今日一日を精一杯生きています。この子の言葉は、私たちの「当たり前」を根底からひっくり返すような言葉です。

著者の池間さんは、この言葉を聞いて人生が変わるほどの衝撃を受けたと記しています。そして、

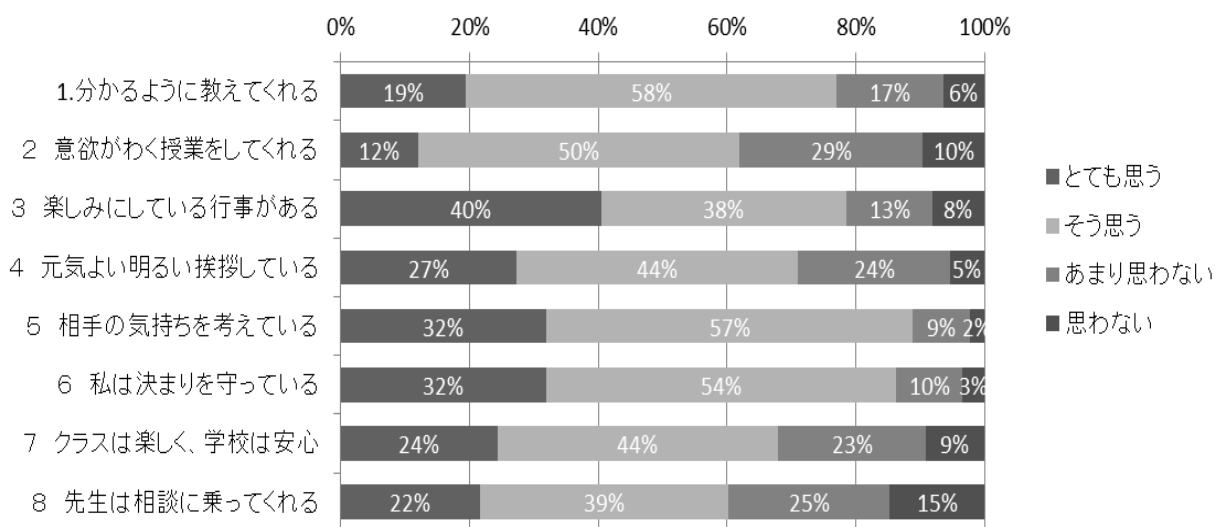
今までの自分の生き方を振り返り、涙が止まらなかったそうです。そして、今日一日を真剣に、精一杯生きていく決意をします。私も、この本を読んで全く同じ気持ちになりました。不平不満を言うよりも、当たり前のごことに感謝して、今日一日を精一杯生きなければいけない。そう思いました。

ご飯が食べられること、勉強ができること、仲間がいること、帰る家があること、家族がいること。こうしたことのどれもが、当たり前のごことではありません。「当たり前のごこと」に「感謝の気持ち」が持てると、今日、1日を精一杯生きようという気持ちになります。困難なことがあっても、頑張ろうという気持ちになります。

今年度の締めくくりの49日間。この3学期は「感謝の3学期」を合い言葉に、当たり前のご事に、感謝しながら、1日1日を大切に過ごしてほしいと思います。



学校評価アンケート（生徒）の結果



○ 「⑤相手の気持ちを考えて友達と接している」が肯定的評価が一番高く、その他の項目でも肯定的評価は6割を超えている。しかし、昨年度の結果と比較すると、全ての項目において肯定的評価がやや下がる結果となった。

特に、「⑦私のクラスは楽しく、学校は安心できる場所になっている」が一番大きく減少し、評価Aが36% → 24% (-12)、肯定的評価全体でも78% → 68% (-10)、であった。当たり前のことではあるが、「誰にとっても居心地の良い、正直者がバカをみないクラスや学校づくり」を全職員で再確認し、生徒と共に秩序ある学級づくりに取り組みたい。

○ 評価Aの割合が高かったのを見てみると、1番高いのが「③楽しみにしている行事がある」（40%）。肯定的評価全体では、「⑤相手の気持ちを考えて友達と接している」と「⑥学校の決まりを守っている」である。まじめに生活し、友達とも仲良く、楽しく学校を送っている状況が数字として表れていると思われる。

○ 否定的評価が高かったのを見てみると、1番高いのが「⑧先生は相談に乗ってくれない」（40%）、ついで「②意欲がわく授業をしてくれない」（39%）、「⑦クラスや学校は楽しく安心できる場所になっていない」（32%）である。

特に、「⑧先生は相談に乗ってくれない」は、評価Dの数字が昨年度の10%（約66人）→15%（約92人）に増えており、状況は様々あると思われるが、担任だけで対応するのではなく、副担任も一緒に、場合によっては学年職員全体で複数で対応するなど、様子を見ながら一層丁寧な対応を心がけるようにしていきたい。

また、授業についても、一層魅力ある授業づくりに心がけていく必要がある。「④元気よい明るい挨拶」についても、昨年からの様々な取り組みをしてきてはいるものの、数字からは思うような成果はあげられていない結果となった。

※学校評価アンケート（保護者）の結果につきましては、次号でお知らせする予定です。